

Japanese Welfare Society in Australia



# Hope Connection Newsletter No.33

ホープコネクションニュースレター第33号 発行日2005年4月1日 発行者 Hope Connection Inc.  
 住所 / 郵便宛先 c/o Migrant Resource Centre, 40 Grattan St. Prahran VIC 3181 電話 (電話相談兼用) 0408-574-824  
 \* Hope Connection Inc. はビクトリア州政府に登録された非営利非宗教の社会福祉団体です \*  
 ホームページ : <http://members.optushome.com.au/hopec> e-mail: [hopec@optushome.com.au](mailto:hopec@optushome.com.au)

## ホープコネクションからのごあいさつ

メルボルンの秋の祭典は F1 カーレーシングで始まりますが、なんと言ってもムーンバ祭が花形です。今年は、このムーンバ祭が開催された3日間の連休がなんと連日 30 度を超える暑さとなり、秋というよりも夏祭り気分で盛り上がりました。花火の打ち上げ、パレード、その他にもいろいろな催し物で老若男女を問わず楽しんだようです。そして約5ヶ月間の夏時間もイースターホリデー(復活祭)中に終り、日没が急に早くなりました。日本との時差は1時間に戻りました。また西オーストラリア州とは2時間、南オーストラリア州、北方準州は30分の時差となります。これからは秋・冬のスポーツの花形、オーズル

ル・フットボール(AFL)観戦、また観劇やコンサートで長い夜を楽しまれる方も多いかと思われます。新聞などでそれぞれの催し物をお確かめになり、メルボルンでの生活を満喫されてください。

ホープコネクションの次回カルチャースクールは五月に恒例のメルボルン生活情報セミナーを行います。特に新しく来られた方々に必要不可欠な知っておいてもらいたい知識、情報、アイデアなどを用意しております。会場を Flinders St. 駅付近のロス・ハウスに移しますので交通の便も更に良くなります。多くの方の参加をお待ちしています。詳細は最終ページをご覧ください。

## カルチャースクール:「留学生調査」報告会行われる

3月に行われたホープコネクションカルチャースクールでは、3年近くかかって取り組んできた「留学生調査」報告会が開催されました。参加者はやや少なかったものの、実際に留学生を世話する立場の人や、これから高校生となるお子さんを持つ親御さん、また現役の高校生の参加もあって、和やかな交換会となりました。報告発表では、アンケート調査の結果概要、面接調査の報告と二部構成で行われました。後者の部では、ロールプレー形式で当日参加した現役高校生に被面接者になってもらい、留学体験を「生々しく」語る場面が入り、異文化の中で戸惑い、怒り、悩み、笑い、たくましく成長していく高校生の姿があぶりだされました。

報告の中で、ホストファミリーについて高校生の具体的不満も紹介され、その質について実際は千差万別であることなども関係者の話などからわかってきました。この点については、ガイドラインなどの基準を設けることが必要ではないかという提言も出ました。

今回、このような形で「留学生調査」結果を発表しましたが、さらに報告書としてまとめ、留学生によりよいサービスの提供を関係機関に働きかけていきたいと考えております。また、これを機会にホープコネクションとしては、ユース・スチューデント・ヘルプライン開設を当面の目標に若者支援に取り組んでいきたいと思っています。さらに、私どものニュースレターにもこれを順次掲載し、多くの皆様と調査結果を共有しながら、コミュニティー全体で若い人たちを応援していければと願っています。以下、報告書の一部をご紹介します。

### 留学生調査報告 (その1)

ホープコネクション 留学生調査チーム

ホープコネクションは(以下 HC と略す)、2002年、10月「留学生調査チーム」(以下調査チームと略す)を組織し、日本人留学生調査に取り組んできた。このたびアンケート調査、面接調査から得られたデータ分析が完了したので、以下詳細を報告したい。

#### 1) 調査の背景

HC がヴィクトリア州の高校に留学している日本人高校生の調査を行ったきっかけは、彼らに接したことのある医師や心理ロジストなどの専門家が、「若い日本人留学生をサポートできないか」と HC に問い合わせてきたり、実際に問題を抱えている学生の状況について伝えてきたことによる。また、高校留学でやってくる若者の数が増えるにつれ、適応の問題や、不登校問題が一部関係者の間で深刻に語られるようになってきた。しかしながら、HC の電話相談に高校生が直接相談してきたことがなかったため、実態把握ができなかった。

HC は創立時よりオーストラリアに暮らす日系の人々への情報サービスの提供を幅広く行ってきたが、若者向けのセミナー(たとえば性問題)など企画してもなかなか集まってこないなど、対応しにくい状況が続いていた。

そこで、庭野平和財団からの助成金を活用し、HC 独自で留学生調査に取り組むプロジェクトが発足した。調査経験のある会員を中心に、

仕事で留学生に接する機会の多い会員や、留学生問題に特に関心のある会員がプロジェクトチームを作り HC の活動の一環として取り組んできた。

## 2) 調査目的

留学生調査プロジェクトの発足に伴い次の目的が確認された。

- \* 留学生が抱える問題、悩みを具体的に把握することで、若者向けサービスの拡充を図る。
- \* 教育省、学校、留学生派遣会社、ホストファミリーなど留学生に係わる関係諸機関に対して、留学生へのより充実したサポートを行うための提言をする

## 3) 調査方法

### 3.1 アンケート作成

上記目的に沿ってまずアンケート作成を行い、以下の項目について質問事項を設けた。

- \* 被調査者の属性(性、年齢、渡豪時期など)
- \* 留学目的、経緯、英語力など
- \* 日本での学校の様子
- \* 学校生活について(友人、教師、授業の難易度、満足度)
- \* 学校外生活について(休日の過ごし方、友達づきあいなど)
- \* ホストファミリーについて(家族構成、食事、親密度)
- \* 健康状態(身体の調子、メンタルヘルス、相談相手の有無)

### 3.2 アンケート配布、回収

アンケートは HC の会員が知り合いなどを通して配布したほかに、留学生派遣業者の協力を得て配布してもらった。アンケート用紙には返信用封筒を添付し、HC の postal address に郵送してもらう方式を取った。アンケートは、2003 年はじめより配布を開始し、約半年間の間に配布、回収を完了させた。配布部数は約 120 部、回収部数は 45 部であった。このうち専門学校生、大学生、大学院生からの回答 8 部は、今回の調査報告対象から除外した。従って被調査者は高校留学生 37 人(女 26、男 11)に限られる。女性のほうが多く回答している点について、実際の留学生の数でも女性が多いのかは不明である。過去 10 年ほどの留学生の数(男女別含めて)については、教育省等諸機関に問い合わせしてみたものの、残念ながら正確な情報が得られなかった。

### 3.3 アンケート分析、整理

回収したアンケートを項目別に集計、整理を行い、アンケート中に後日面接調査に協力してもよいと記名回答した者を、面接対象者として区分した。

### 3.4 面接調査

アンケートへの回答をもとに、面接時における質問を作成した。質問内容は、学校生活(英語学習の補習の有無、教師、他の学生との関係、ドラッグ、アルコール問題、日本の学校との比較)、ホストファミリー(もめごと、食事、病気のときなど)、日本の家族について(コミュニケーションの頻度)、カルチャーギャップ、将来のことなどをも盛り込んだ。

面接に応じた留学生は、全部で 9 人(男 2、女 7)。調査者と 1 対 1 で行う形式を取り、内容はテープレコーダーに録音した。しかし 9 人のうちひとり、遠方に住んでいたため、電話によるインタビューであった。面接は、2004 年 4 月から 8 月に実施された。アンケート回答から約 1 年以上経過していたので、TAFE などに進学した者も面接対象者となった。面接を行う前に、調査の目的を伝え、被調査者のプライバシーを守ることを確認し、面接に協力する旨の同意書に署名してもらった。面接はカフェなどの場所で 1 時間から 2 時間の範囲で行われた。

録音テープは、面接担当者がテープ起こしをし、調査チームが分析を行った。

## 4) 分析結果

### 4.1 アンケートについて

アンケート結果から得られた主な特徴について述べてみたい。回答者の多くは男女とも中学を卒業(女 12、男 6)、あるいは高校を中退(女 7、男 3)してきた者が大半であり、中には中学退学者(女 1、男 1)もいた。留学の目的は、英語上達が圧倒的であった。日本の大学入試のためと回答したものはひとりもいなかった。また留学は多数が自分の意志で決めてきている。ことに女性は、ひとりを除いて 25 人が自分で決めたと回答、男性は 5 人が自分で決め、親、友人と相談したと答えた者が 4 人いる。留学生の中には日本で、不登校などの問題があったものが多いのではないかという予測をしたが、日本の学校を長期に欠席したり、日本の学校に不満をいただいていると回答した者は、男性で 4 名ほどいるが、女性では非常に少なかった。この面でも女性のほうが適応柔軟型と見ることができると思う。

学校での様子では、半数以上が授業についていけないと答えているが、男性 2、女性 7 人が半分ぐらいいかわからないと回答している。勉強の難易度については、男女とも困難を感じているものが半数以上であった。具体的には科目によると見られ、化学、生物、社会など難しいと回答している者もいた。教師、友人らからの援助については、男女ともほとんど満足している様子が伺え、英語を教えてくれる友人が数人いると回答しているものがほとんどである。英語に関しては、少なくとも援助があるようだ。

友人については悩みを話せる友人が「いない」と答えた者はなく、大半が数人の親しい友人を持っていたが、女性の半数近くの 10 名が友人作りが英語力の不足などのために難しいと回答していた。友人は、日本人中心に偏る傾向はややあるものの、アジア系含め現地のオーストラリア人も付き合っていることがわかった。

学校外の生活では、ホストファミリーとも家族の関係ができている場合と、下宿的な環境とに分かれるようである。たとえば、家族旅行に誘われたことがあるかとの質問に、回答が二分している。女性のほうが多く誘われているが、男性は少ない。女性はベビーシッターを頼まれることもあるようだ。友人を家に呼ぶことは一人を除いて禁止されてはいない。多くが月 1、2 回ぐらいい頻度で友だちを呼んでいる。ホストファミリーとの関係は男性一人を除いて不満はないと回答している。しかし、面接調査ではむしろホストファミリーへの不満が多く語られ(面接調査結果については、次号ニュースレターで報告予定)、ホストファミリー問題が潜在していることをうかがわせる。

いずれにしてもアンケート結果から見る留学生活の満足度は、高い

と見ることができるようだ。しかし、健康状態についての質問では、男女とも疲れやすい、いろいろな回答していた者が約半数に上っていた。こうした場合、大半は友だちなどに相談するケースが目立つが、中には少数だが、ホストファミリー、ガーディアンなどにも相談している。一方、男性4、女性2名は相談しないと回答している。恋愛問題で悩む者が少数いたが、ドラッグの悩みを抱えるものは回答者の中には見られなかった。

以上アンケートから出てきた特徴についてまとめたが、当初予想し

た深刻な適応問題などは出てこなかった。アンケートに自主的に答える形式では、難しい問題を抱える学生はこの種の調査に積極的に答える確率は低く、深刻なケースはどうしても外れてしまうと思われる。従って、このアンケート調査結果をもって大半の留学生は比較的順調と結論づけることは早計と思われる。表面に出にくい問題の掘り起こしをどのようにするのか、課題が残されたらと理解すべきだろう。

なお次号のニュースレターでは、面接調査結果について報告したい。

## Timaru と呼ばれる町：ニュージーランド留学体験から

影山亜衣

ニュージーランドの南島、クライストチャーチから海沿いを2時間ほど南へ下ったところにあるティマルは空と同じくらい青い海と、尖った山に残る白い雪の間におよそ4万2千の人々がのんびりと暮らしています。時計台は無いものの、魔女の宅急便の町にも少し似た海が見える港町です。

語学学校2校、専門学校1校と聞くだけにとても静かで、実際とても静かなので、都市から来た海外からの生徒は「することがなくてつまらない」と言って離れていく人たちもいますが、まず日本では味わえない空気、自然、時間がここティマルにはあります。

道を歩く人を見れば「Hello」とお互い挨拶を交わし、にっこり笑って通り過ぎていくのがあたりまえ。街にはない暖かさがごく普通に交わされるのです。町を歩いて気づくことは、はだして歩く若者が多いこと。おしゃれなのか、めんどくさいのか、結局理由は不明。でもこれが今のキウイスタイルで、足を踏まれることがないからでは？と私は勝手に判断しました。

おもしろいことに、ニュージーランドでの自己紹介は基本的

に名前、出身地、それからスポーツ。この場合には何のスポーツが好きかと言うよりも、何をプレーするかと言うことになります。「はじめまして、お名前は、ハッハッハ、スポーツは？」と言った具合に大人から子供まで、だいたいの場所で行われる会話です。

私がメディアの勉強をしていたときも初めての方にインタビューをする時は大きなナショナルもしくはインターナショナルのスポーツゲームは必ず見るようにし、最初の話題としてよく使いました。大きなゲームなんかあったかな？では巷の話題についていけなくなったりするのです。

オーストラリアからもしくは日本からでは想像しがたいですが、ティマルの隣町に行くにはハイウェイを使い、車で約15分。その間には広大な牧場に羊、牛、馬などがのんびり草を食べています。ニュージー生活が長かったせいか、こちらに来てからどこからが隣町か理解するのに少し時間がかかってしまったのは私だけでしょうか。

隣の国、似たような歴史、でもやっぱり違います。私の過ごしたティマルからのレポートでした。

## Discrimination (差別) を受けたら

昨年暮れ、Equal Opportunity Commission Victoria 主催の Human Rights for Disability という講演を聴きに行きました。そこで得た情報、知識をお伝えします。Discrimination は、しばしば年齢 (Age)、性 (Sex)、人種 (Race) によってなされることは言うまでもありません。某大臣が議会で授乳 (Breastfeeding) したとひんしゅくをかっていたのですが、公的な場での授乳を禁じたりすることは Discrimination なのでしょう。高齢になると、若いときにやれたことができなくなります。このように性や、年齢に特殊な条件が加わって差別を受けることもしばしばです。

ほかに、太っている、背が高いなど本来欠陥ではない外見 (Physical features) で差別されたり、妊娠 (Pregnancy) していることで職場や教育を受ける場から追い出されたり、あるいは、子持ちかどうか、結婚の有無、父親か、母親かといった点で差別を受けることもあります。さらに、職業、政党、宗教によっても差別を受けることがあります。現法律下では誰もこのような属性や、思想、信条等で差別を受けてはならないのです。就職の面接などで、年齢、結婚しているかどうか、近い将来出産予定かどうか等問われたとしたら、法律違反 (Against the law) とみなされます。

間接的な差別ということも問題視されます。たとえば、ある会社が勤続10年以上の人に給与を上げることを決めたとします。女性は、出産・育児などで10年勤続していない場合が多いため、「間接的に」差別を受けていると抗議できます。

また、障害 (Disability/Impairment) を持った人たちの就業・教育の場が限られてはならないとされています。ですから車椅子に乗る生徒が入学を希望するときには、学校は車椅子で自由に構内を移動できるように設備を整えなければなりません。知的障害 (Intellectual Disability) という理由で外出の権利を奪ったり、入室を拒んだりしてはならないとされています。

この講演会では、身体の不自由な人たちに対して、公共交通機関が彼らの立場に立っていないと指摘していました。障害を持った人たちは臆せずしっかり権利を主張して欲しいと述べていました。

それでは、どのように Discrimination に対処すればよいか簡単にご紹介しましょう。

**ステップ 1:** あなたを差別する人に、まずやめるように言いましょう。職場で差別されたら、マネージャー、あるいは人事課の人に仲裁を依頼し、問題解決にあたってもらいましょう。

**ステップ2:**もし、解決が見つからない、あるいは差別が継続するような場合、Equal Opportunity Commission Victoria (EOCV) に秘密厳守の相談をしてください(無料です)。電話、面接相談にも応じてくれます。必要なら通訳者を頼んでくれます。

**ステップ3:**EOCV の苦情担当官 (Complaint Officer) は、異議申し立て申請書作成を手伝ってくれます。電話でも面接でも申請を受け付けてくれます。仲裁者 (Conciliator) が双方と面談し、問題解決のための話し合いをします。申請中に気持ちが変わって取り下げたくなったら途中でやめることもできます。

EOCV の連絡先は以下の通りです。  
Equal Opportunity Commission Victoria

3/380 Lonsdale Street Melbourne VIC 3000  
Advice Line: 03-9281-7100  
Toll Free: 1800-134-142 (country callers)  
Fax: 03-9281-7171  
TTY: テキストメッセージ 03-9281-7110  
E-mail: [complaints@eoc.vic.gov.au](mailto:complaints@eoc.vic.gov.au)  
Website: [www.eoc.vic.gov.au](http://www.eoc.vic.gov.au)

あなた自身が勇気を出して差別に抗議することで、似たようなケースの防止にもなります。泣き寝入りせず、アクションを起こしましょう。  
(ホープコネクション会員M)

## ホープコネクションからのお知らせ

### 「メルボルンによろこそ、新来者のための生活情報案内」

毎回ご好評を頂いているホープコネクション・カルチャースクール。今回は5月恒例の新しくメルボルンにいらした皆様のための生活情報セミナーを開催します。明日からの安全で快適な生活に役立つ情報が満載です。日本との違いに焦点を当てていろいろなヒントをご紹介します。ご家族連れでの参加も歓迎いたします。

日時: 5月21日(土)午前10時30分~午後0時30分

場所: Ross House

247 Flinders Lane Melbourne 3000

Swanston St.と Elizabeth St.の間です。Flinders Station から徒歩2分。

内容: メルボルンでの生活を暮らしやすくするために必要な実際の情報やヒントを集めました。

公共交通機関の使い方、通訳サービス、教育、医療システム、買い物、銀行、住宅、運転 etc.

ご質問にもホープコネクションが総力を上げてお答えいたします。

費用: 一人5ドル(コーヒー・紅茶、資料付)

お申し込み・お問い合わせ: **0408-574-824** 日本語電話相談(月~金曜日 10時~15時)まで。

または、E-mail: [hopec@optushome.com.au](mailto:hopec@optushome.com.au) まで。

チャイルド・ケアご希望の方、こんなことが聞きたいとご希望などありましたら、お申し込みの際にお知らせください。会場・資料準備のため事前の申し込みをお願いいたします。当日の午後9時以降、**0408-574-824** にて当日参加の受付もいたしますが、資料がお渡しできない場合もありますことをあらかじめご了承下さい。

### ホープコネクション電話相談のご案内

ホープコネクションでは、96年8月より日本語での電話相談を行っています。生活の中での困りごとのある方、相談相手のない方、悩み事を誰かに聞いてもらいたい方、お電話をいただければ、訓練を受けたボランティアの相談員が一緒に考えます。内容によっては専門家に紹介もいたします。さらに現在ではマイグ란トリソースセンター(移民のための窓口となる公共団体)をはじめとする、オーストラリアのサービス機関とも協力、連携を深め、ネットワークを広げています。電話は匿名で構いません。秘密は厳守致します。(相談は無料ですが、携帯電話を使用しているため、時間単位の通話料金がかかります)

**電話番号: 0408-574-824**

**受付時間: 月~金曜日 午前10時~午後3時まで**

**Special Thanks to** – 庭野平和財団、Good Neighbours Trust Fund、South Central Region Migrant Resource Centre、Moshi-Moshi ページ Pty Ltd.、メルボルン在住匿名希望の方、Victoria Multicultural Commission、伝言ネット、ユーカリ出版、Southern Sky、Education Logistics、JCV、豪日協会、佐川義人、Timothy McDonald、Michal Morris、洋子マーフィー、NEC、メルボルン日本人会、大隈良譲、Sandra Roeg、SBS 日本語放送、天野行哲、加茂前千代、Christine J. Rodan、吉澤通明、山本和儀、Mark Preston、Stacey Steele、鈴木月子、田村真美、村越庸子、Jennie Rice、City of Stonnington、City of Port Phillip (敬称略・順不同)